

2024年度 環境経営レポート

〔2024年 5月 1日～2025年 4月 30日〕

2025年8月22日

千代田興産株式会社

目次

環境経営方針	3頁
1.組織の概要	4頁
2.対象範囲	5頁
3.環境経営目標とその実績	5頁
4.環境経営計画の実施状況と評価	6～7頁
5.環境経営活動の活動事例	7～9頁
6.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無	9頁
7.代表者による全体評価と見直し・指示	10頁

千代田興産株式会社

環境経営方針

基本理念

千代田興産株式会社は、「電機技術を通じ社会に奉仕する」の経営理念をもって、地球環境の保全への取組が最重要課題の一つであることを認識し、従業員一人一人が積極的かつ継続的に環境負荷を軽減し、社会貢献を目指した企業活動を推進します。

基本方針

千代田興産株式会社は、環境に関する法規制を遵守し、法の精神に基づき必要な処置を講じて、環境改善を図ることを目的とし、以下の方針を推進致します。

1. 当社の事業活動に係る環境影響を常に認識し、自主的・積極的に環境負荷の削減を図ります。
2. 当社の事業活動に係る環境関連法規その他の関連事項を遵守します。
3. 当社の事業活動に係る環境影響に関し、以下の事項を環境管理テーマとして取組みます。
 - ① 二酸化炭素(CO2)排出量の削減
 - ② 廃棄物の削減及びリサイクル
 - ③ 水使用量の低減
 - ④ グリーン購入の推進
 - ⑤ 省エネに対応した取扱商品の販売・提供
 - ⑥ 経営環境システムの継続的な改善
4. 当社の環境負荷低減活動を全社員に周知し、環境活動レポート等を作成し、公表します。

制定 2008年7月1日
改定 2009年9月1日
改定 2011年7月8日
改定 2016年9月1日
改定 2022年9月26日
改定 2023年9月27日
改定 2025年5月1日

千代田興産株式会社
代表取締役 宮脇 一朋

1. 組織の概要

(1) 事業者氏名及び代表者名

千代田興産株式会社
代表取締役 宮脇 一朋

(2) 所在地

本社	〒810-0012	福岡県福岡市中央区白金2丁目5-16
東京支社	〒103-0023	東京都中央区日本橋本町4丁目6-7 光洋ビル
大阪支店	〒550-0002	大阪府大阪市西区江戸堀1丁目15-27 アルテビル肥後橋
中国支店	〒730-0037	広島県広島市中区中町7-32 ニッセイ広島ビル
四国支店	〒760-0022	香川県高松市西内町4-6 神原ビル
鹿児島支店	〒890-0052	鹿児島県鹿児島市上之園町25番1号 中央ビル
大分営業所	〒870-0037	大分県大分市東春日町6番1号 つつみビル
岡山営業所	〒700-0984	岡山県岡山市桑田町18番28号 明治安田生命岡山桑田町ビル
神戸営業所	〒650-0023	神戸市中央区栄町通2-3-9 共栄ビル
沖縄営業所	〒900-0015	那覇市久茂地3-9-3 田園ビル4F

(3) 環境管理責任者及び担当者の連絡先

・環境管理責任者 総務部長 横田 伸天
・環境管理担当者 総務部 宇野 健一
・連絡先 TEL 092-533-2981 FAX 092-533-2999
・E-mail uno.kenichi@cknet.co.jp
・URL <http://www.cknet.co.jp>

(4) 事業の内容

・電気機器の販売並びに販売に関する設置・保守

(5) 事業の規模 (各年4月末現在)

区分	場所	2021年	2022年	2023年	2024年
従業員(人)	本社	86	84	92	94
	東京支社	16	14	13	12
	大阪支店・神戸営業所	54	55	55	58
	中国支店・岡山営業所	34	37	41	39
	四国支店	4	4	4	4
	鹿児島支店	5	6	5	6
	大分営業所	4	5	5	6
	合計	203	205	215	219
床面積(m ²)	本社	890	890	890	890
	東京支社	152	152	152	152
	大阪支店・神戸営業所	507	507	507	507
	中国支店・岡山営業所	238	238	352	369
	四国支店	56	56	56	56
	鹿児島支店	83	83	83	83
	大分営業所	107	107	107	107
	合計	2,033	2,033	2,147	2,164

(6) 事業年度

・5月～翌年4月

(7) 建設業許可

・国土交通大臣 許可(特-4) 第2455号
電気工事業/電気通信工事業/管工事業

2. 対象範囲

(1) 事業所名

1. 千代田興産株式会社 本社
2. 千代田興産株式会社 東京支社
3. 千代田興産株式会社 大阪支店
4. 千代田興産株式会社 中国支店
5. 千代田興産株式会社 四国支店
6. 千代田興産株式会社 鹿児島支店
7. 千代田興産株式会社 大分営業所
8. 千代田興産株式会社 岡山営業所
9. 千代田興産株式会社 神戸営業所
10. 千代田興産株式会社 沖縄営業所

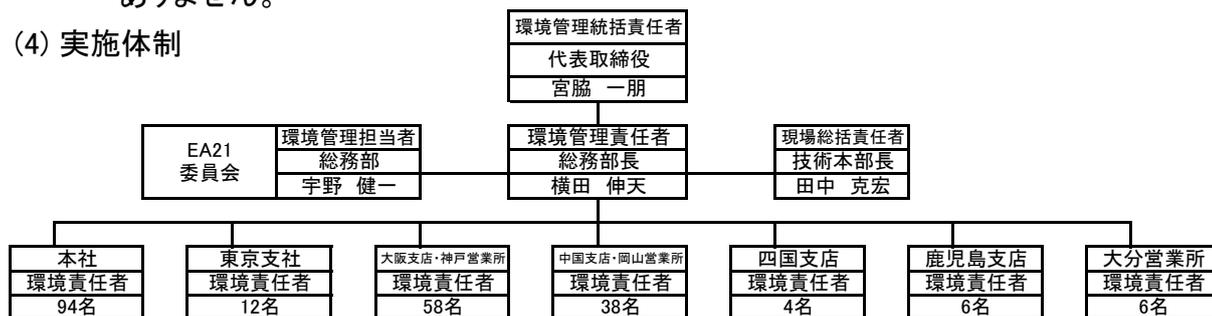
(2) 活動

- ・電気機器の販売並びに販売に関する設置・保守

(3) 対象外事業所及び対象外事業活動

- ・ありません。

(4) 実施体制



3. 環境経営目標とその実績

環境方針に基づいて、以下の目標を掲げて環境活動に取り組みました。

(1) 【第70期(2024年5月～2025年4月)の目標と実績】

区分	年度	単位 (総量)	目標 削減率 (基準年比)	基準年 実績	年度目標	実績	目標達成状況		
							対基準 年度	対年度 目標	自己 評価
I	二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	-1%	182,559	180,734	182,649	0.0%	1.1%	△
	①電気使用量	kWh	-1%	218,638	216,451	220,887	1.0%	2.0%	△
	②自動車燃料(ガソリン)	L	-1%	34,445	34,101	35,196	2.2%	3.2%	△
	③自動車燃料(軽油)	L	-1%	10,439	10,334	9,362	-10.3%	-9.4%	○
II	水使用量	m ³	-1%	615	609	536	-12.8%	-12.0%	○
III	産業廃棄物の削減	Kg	-1%	44,548	44,103	71,163	59.7%	61.4%	×

・二酸化炭素排出量の実績値において、購入電力の排出係数は下記の係数を使用しました。

- ①本社、鹿児島支店、大分営業所 0.000296t-CO₂/kWh
- ②東京支社 0.000384t-CO₂/kWh
- ③大阪支店 0.000299t-CO₂/kWh
- ④中国支店 0.000529t-CO₂/kWh
- ⑤四国支店 0.000484t-CO₂/kWh

(2) 【主要指標の前年対比】

区分	年度	単位 (総量)	第69期 実績	人数	第68期 1人当たり	第70期 実績	人数	第70期 1人当たり	前年 比
I	二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	182,560	215	849.1	182,649	219	834.0	-2%
	①電気使用量	kWh	218,638	215	1,016.9	220,887	219	1,008.6	-1%
	②自動車燃料(ガソリン、軽油)	L	44,884	215	208.8	44,558	219	203.5	-3%
II	水使用量	m ³	615	146	4.2	536	141	3.8	-10%

4. 環境経営計画の実施状況と評価

(1) 二酸化炭素排出量の削減

取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
電気使用量の削減 (-1%)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの温度設定 冷房時温度 27℃ 暖房時温度 20℃ ・不要照明の消灯 ・OA機器の節電 ・電力使用のデマンドモニター ・エネルギー効率の高い機器の導入 	<ul style="list-style-type: none"> △ △ ○ ○ ○ ○ 	大阪/四国支店における空調入替やLED化により、低減効果は確認できた。一方で、中国支店における増坪の影響を受けてか、使用量が大きく増えたので、注意をようする。
自動車燃料使用量の削減 (-1%)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・エコ運転の徹底 アトリングストップ エアコンの冷やしすぎ注意 法定速度運転の推進 急発進・急加速の禁止 空ふかしの禁止 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ ○ △ ○ 	支店ごとに明暗分かれる結果となっているが、基本的に営業活動における使用量のため、やむを得ない部分であるとは認識している。継続的な取り組みは実施できている。 eテレマに関しては、エコドライブと安全運転の意識醸成に寄与している。 ドライブレコーダーは全車搭載済みである。 安全運転の慣行に努める。

(2) 水使用量の削減

取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
水使用量の削減 (-1%)	○	<ul style="list-style-type: none"> ・水道水圧を下げる ・使用量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ 	管理対象は本社と大阪支店のみである。 本社の水栓トイレの入れ替えによる効果が定着。

(3) 一般廃棄物の適正処理

取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
一般廃棄物の適正処理	○	<ul style="list-style-type: none"> ・会議資料等の電子メディアの利用促進 ・裏紙の活用促進 ・使用済み封筒再利用の推進 ・ごみ分別の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ ○ ○ 	社内運用の結果、一般廃棄物の排出量は、社内努力による今以上の削減効果が見込みにくいことや気温等の外的要因(寒暖差における缶・瓶・ペットボトルの増加等)が大きい為、数量把握は本社を除いて中止します。従来通り、適正処理を実施すること。

(4) グリーン購入比率向上

取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
グリーン購入比率向上	△	<ul style="list-style-type: none"> グリーン購入対象商品の購入推進 エコマーク製品の優先的購入推進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ △ 	今後、グリーン購入については、目標を意識せずに取り組んでいく。

(5) 省エネに対応した取扱商品を増やす

取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
環境・省エネに貢献する商品の取扱	△	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素型製品の推進 高効率等の省エネルギー機器 センサー利用の機器制御省エネシステム 再エネ・省エネ・再生利用商品の提案 	△	省エネ提案の件数に拘らず、提案実施から社会的に省エネ製品の普及に寄与する。

(6) 環境負荷低減に配慮した工事

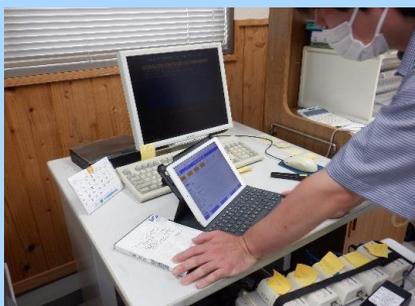
取組対象	達成状況	取組計画	実施状況	評価
環境負荷の低減	△	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の少ない工事内容の提案 全体的な工期の短縮を目指す 環境負荷の低い製品の選定 工事における科学燃料/電力/産廃の低減 	○	事例としても可能な限り工期短縮も実施できている。

5. 環境経営活動の活動事例

<活動事例-社外関係->

(1)岡山県農林水産事業部

児島湾土地改良区 都管理所監視操作端末修繕



<作業担当者のコメント>

監視用PCの故障に伴い客先からはPC本体交換の要望を受けるが、当該機器の現地調査を行い故障箇所を特定したことで該当部品のみでの交換で不具合を解消することができたため、客先事業所から発生する廃棄物の削減に貢献した。

(2)空調設備更新工事

室内機(更新前)



室内機(更新後)



室外機(更新前)



室外機(更新後)



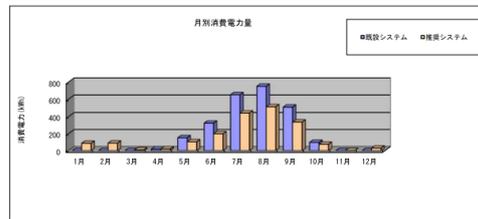
<空調機消費エネルギー比較による提案>

冷房		暖房	
熱源	16 kW (負荷設計外気温35℃)	8 kW (負荷設計外気温0℃)	
設定温度	24℃	20℃	
期間	4月1日 ~ 10月31日	11月1日 ~ 3月31日	
空調時間	9時 ~ 17時	9時 ~ 17時	
空調日数	1月: 2日, 2月: 3日, 4月: 5日, 6月: 1日, 7月: 2日, 8月: 4日, 9月: 6日, 10月: 9日, 11月: 12日, 12月: 21日	1月: 21日, 2月: 21日, 3月: 21日, 4月: 21日, 5月: 21日, 6月: 21日, 7月: 21日, 8月: 21日, 9月: 21日, 10月: 21日, 11月: 21日, 12月: 21日	

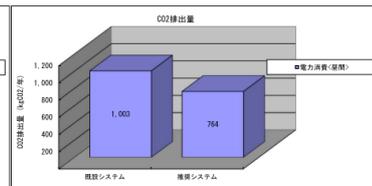
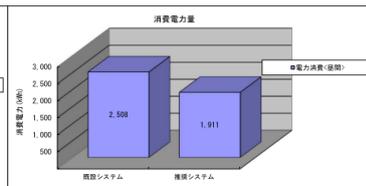
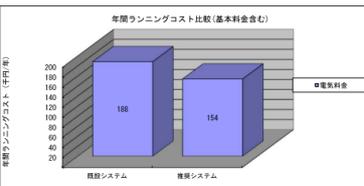


	既設システム	推奨システム
ランニングコスト (基本料金含む)	¥188,416 /年	¥153,921 /年
差額		¥34,496 /年 お得
削減率		18% お得
CO2排出量	1,003 kgCO2/年	764 kgCO2/年
差		239 kgCO2/年 削減
原油換算値	0.56 kℓ/年	0.43 kℓ/年
差		0.13 kℓ/年 削減

	既設システム	推奨システム
電気料金	契約電力会社: 関西電力	
区分	高圧産業用電力	
契約種別	高圧電力B5	
契約電力	60k	50k



	台数 (台)	定格能力 (kW)		年間入力 (kWh)			年間ランニングコスト (円/年)			
		冷房	暖房	冷房	暖房	合計	冷房	暖房	合計 (基本料金含む)	
既設システム	1	16.0	0.0	2,508	0	2,508	41	0	41	188
推奨システム	1	12.5	14.0	1,696	216	1,911	29	3	31	154



<工事担任者のコメント>

夏期は空調機 (188,416円/年)、冬期は灯油ストーブ (灯油購入額192,198円/年) を使用していたが、冷暖房空調機に更新することにより、年間ランニングコストが約40%及びCO2排出量も約24%削減できることを提案・実施し、削減することができました。

<活動事例-社内関係抜粋->
(1)省エネエアコンに変更



(2)事務所内LED化



(4)事務所内ごみの分別および計量作業



(3)CO2削減のための活動状況定例会議



5. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社の事業活動において法的義務を受ける主な環境関連法規は次のとおりです。

適用される法規制等	適用される事項(施設・物質・活動等)	適合状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物(本社) 建設業関連廃棄物(本社・大阪支店・中国支店)	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品 業務用の空調機器	○
自動車NOx・PM法	車両管理	○
騒音規制法	工事拠点	○
建設リサイクル法	工事拠点	○
電気工事法	工事拠点	○
建設業法	工事拠点	○

2024年5月に上記の環境関連法規の遵守状況を確認・評価した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

7. 代表者による全体評価と見直し・指示

中期目標

区分	年度	単位	2023年度	2024年度		2025年度		2026年度	
			基準年	2024.05-2025.04		2025.05-2026.04		2026.05-2027.04	
				削減率 (基準年より)	年度目標	削減率 (基準年より)	年度目標	削減率 (基準年より)	年度目標
I 二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	182,559	-1%	180,734	-1.5%	179,821	-2%	178,908	
①電気使用量	kWh	218,638	-1%	216,451	-1.5%	215,358	-2%	214,265	
②自動車燃料(ガソリン)	L	34,445	-1%	34,101	-1.5%	33,928	-2%	33,756	
③自動車燃料(軽油)	L	10,439	-1%	10,334	-1.5%	10,282	-2%	10,230	
II 水使用量	m ³	615	-1%	609	-1.5%	606	-2%	603	
III 産業廃棄物の削減	Kg	44,548	-1%	44,103	-1.5%	43,880	-2%	43,657	
IV 一般廃棄物の適正処理	数量等の目標等なし								
V グリーン購入の実施									
VI 環境・省エネ商品の取り扱い									

※ IV～VIに関しては、適正処理・経済合理性の範囲での実施・環境省エネ承認の推奨を目的にし、定量把握は行っておりません。

※ 新計画における目標は直近3か年をベースにして算出している。

本年度より新たに2023年度実績を基準値とした新中期計画が開始されました。
2024年度の活動を振り返ると、社員数が215名⇒219名と人的には微増しました。

その中での環境経営活動は、年度目標をわずかに達成できない結果となりました。
内容を分析すると、①営業活動の活発化による車両利用の増加②増坪における使用量割り当て増など前向きな増加理由や当社でコントロールできない部分があると認識しております。
一方で①空調の入れ替えやLED化②新しい車両への入れ替えも順次行っておりますので、この効果が来期以降に反映されてくるものと思います。

当社における環境経営活動は、長年の経験・蓄積から活動レベルでは周知と行動ができています。
また去年1月より開始した建設業対応版における主に現場関係のエコアクションに関しましても、技術本部主導のもと、実務的な周知・行動活動のレベルが上がってきております。
今後も全社員で協力し合い積極的に環境負荷の低減に取り組み、環境経営目標の計画を達成するようによろしくお願いいたします。

千代田興産株式会社
代表取締役 宮脇 一朋